

## 提言9

## ちがいを認めあい、 自尊感情をゆたかに育む「道徳」に！

- 文科省は、規範意識の薄れがいじめや不登校を引き起こす要因であるとして、学校において規範意識を高める必要性を強調しています。しかし、私たちは子どもと接する中で、いじめや不登校が規範意識の薄れによるものではないことを実感しています。
- 私たちがこれまで積み上げてきた地域教材を活用し、身近な社会的課題を通して、子どもの実態にあった教材づくりをしていきましょう。
- 「道徳」では、さまざまな背景をもつ子どもたちが自分と異なる価値観に気づき、互いに認めあいながら、物事を批判的に考えたり判断したりすることが重要です。多様な意見を安心して発信できる場と集団の中で、子どもはこうあるべきだという既成の価値観にとらわれない「多面的・多角的に考える」授業づくりをすすめていきましょう。また、その際、私たちが常に重視してきた人権教育の視点を十分に取り入れていきましょう。
- 評価を行うことは、心の内面までを評価することにつながりかねません。たとえ個人内評価だとしても子どもの「成長の様子」を意識しすぎると「できる・できない」といった尺度に引きずられ、目の前の子どもを肯定的に受け止めることが難しくなります。多様性を認め、自尊感情をゆたかに育みながら、子どもに寄り添っていきましょう。